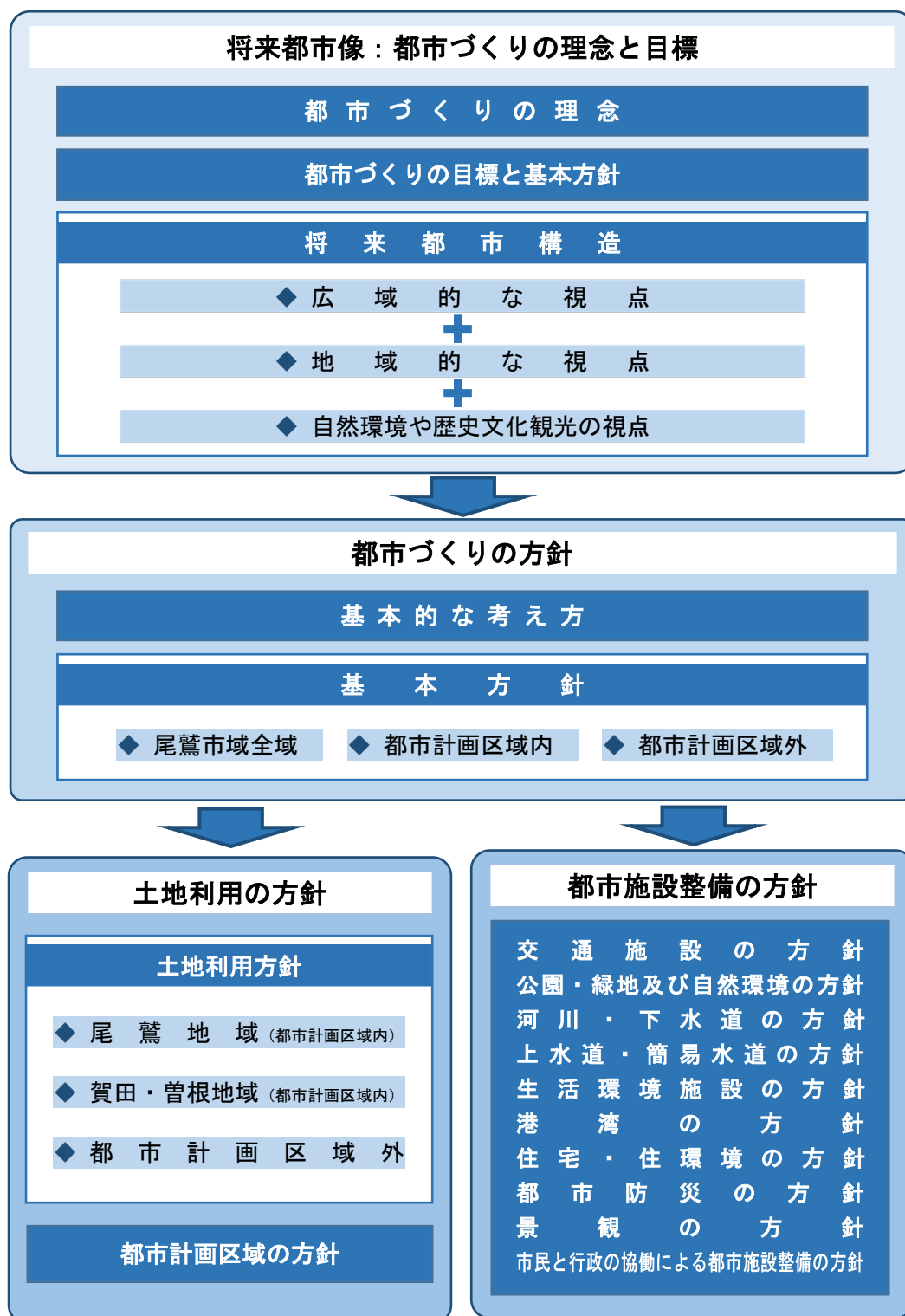


第2章 全体構想

第2章では、本マスタープラン全体構想として、本市全体の都市づくりの方針について定めます。全体構想は、「将来都市像：都市づくりの理念と目標」、「都市づくりの方針」、「土地利用の方針」及び「都市施設整備の方針」で構成されます。



1. 将来都市像：都市づくりの理念と目標

(1) 都市づくりの理念

本市には、熊野灘、紀伊山地などの美しい風景とともに、「うみ」「やま」に培われた多様な産業と美しい景観があり、悠久の歴史をもつ世界遺産・熊野古道などにより育まれた歴史伝統文化があります。

また、紀勢自動車道、熊野尾鷲道路が整備され、本市は県内各都市や名古屋、大阪などの大都市圏と数時間でつながるようになりました。

このような地域資源の活用や社会環境の変化をとらえて、地場産業を育成し若者の雇用と定住を図り、市民が“安全で誰もが快適に暮らせる”地域社会と環境をつくり続けるため、本マスタープランでは『うみ・やまなどの地域資源を活かした 地場産業や新たな産業を育み 安全で誰もが快適に暮らせる まち おわせ』を都市づくりの理念として定め、この実現に向けた都市づくり、地域づくりを進めていきます。



（2）都市づくりの目標と基本方針

都市づくりの理念をふまえ、本市の都市づくりの目標と、これに基づく基本方針を次のように定めます。

目標 その1 新たな広域交流を展開するまちづくり

◆ 基本方針

県内各都市や名古屋、大阪などを結ぶ、紀勢自動車道、熊野尾鷲道路を活かし、広域交流を展開するまちづくりを推進します。

熊野尾鷲道路（尾鷲南 IC）



目標 その2 地場産業の活性化と新たな産業の育成を図るまちづくり

◆ 基本方針

本市の資源を活かした地場産業の再生、活性化を図るとともに、新たな産業の誘致が可能な環境の整備を図り、活力あるまちづくりを進めます。

尾鷲三田火力発電所跡地



目標 その3 中心市街地と周辺集落が連携するまちづくり

◆ 基本方針

尾鷲地区の中心市街地と周辺の農業・漁業集落のつながりを強化するとともに、それぞれの地域の特性を活かしたまちづくりを図り、本市全体として、賑わいと魅力あるまちづくりを進めます。

紀望通り



目標 その4

誰もが快適に住み続けられるまちづくり

◆ 基本方針

尾鷲地区の中心市街地の活性化や木造密集市街地の改善、都市空間のユニバーサルデザインなどの整備、また、農業・漁業集落においては、生活環境の整備により、誰もが快適に住み続けていけるまちづくりを進めます。

都市計画道路坂場銀杏町線



目標 その5

豊かな自然環境と歴史伝統文化を活かしたまちづくり

◆ 基本方針

熊野灘、紀伊山地などの豊かな自然環境や世界遺産である熊野古道などの歴史文化資源を活かした、市民にとって身近にあるものが誇りとなるまちづくりを進めます。

熊野街道のまち並み



目標 その6

災害に強い安全安心なまちづくり

◆ 基本方針

都市基盤の改善や避難ルートの整備など、尾鷲市国土強靱化地域計画に基づき、南海トラフ地震や台風などの大災害に対応できる安全で安心なまちづくりを進めます。

尾鷲港



目標 その7

市民が主役の、事業者や行政との協働によるまちづくり

◆ 基本方針

本市の各地域が連携した市民まちづくり活動を推進し、市民が主体となり、事業者や行政との協働による、「うみ・やまなどの地域資源を活かした 地場産業や新たな産業を育み安全で誰もが快適に暮らせる まち おわせ」の実現に向けたまちづくりを進めます。

策定委員会



（３）将来都市構造

本市の人口の将来展望に関して、平成 27 年 10 月策定の「尾鷲市人口ビジョン」において、本市が目指すべき将来の方向として、以下の４点を設定しています。

- 安定した雇用を創出する
- 新しい人の流れをつくる
- 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
- 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する

この４点に沿って適切な対策を進めることを前提に、自然動態（合計特殊出生率）と社会動態（転出・転入）を改善することによる、本市の人口の将来展望は、令和 12 年（2030 年）13,616 人とされています。

本計画の目標年次である令和 12 年（2030 年）の将来人口は、本市の人口ビジョンの 13,600 人とします。

本市の人口の減少は避けられない状況にあり、人口減少、高齢化が進行し、都市が縮退するなか、持続可能な都市づくりを図る上で、コンパクト（生活サービス機能と居住を集約する）＋ネットワーク（各拠点等をつなぐ交通ネットワーク）で構成される、集約型都市構造の形成が必要となります。

本市の将来都市構造は、中心市街地や集落、各拠点を軸でつなぐ、集約型都市構造の形成を図ります。

また、本市の将来都市構造を「広域的な視点」、「地域的な視点」及び「自然環境や歴史文化観光の視点」から設定します。

◆ 広域的な視点

国道42号、J R紀勢本線及び紀勢自動車道、熊野尾鷲道路の開通による広域交流流通軸を活用した、新たな都市づくりを図ります。

【 広域交流流通軸 】

本市と三重県の他地域や、県外の名古屋、大阪などを数時間でつなぐ紀勢自動車道、熊野尾鷲道路及び国道42号、国道425号、J R紀勢本線を『広域交流流通軸』に位置づけます。

【 広域拠点 】

J R尾鷲駅周辺地区をターミナル機能や商業業務機能が集積する拠点として、本市のみならず東紀州地域における『広域拠点』に位置づけます。

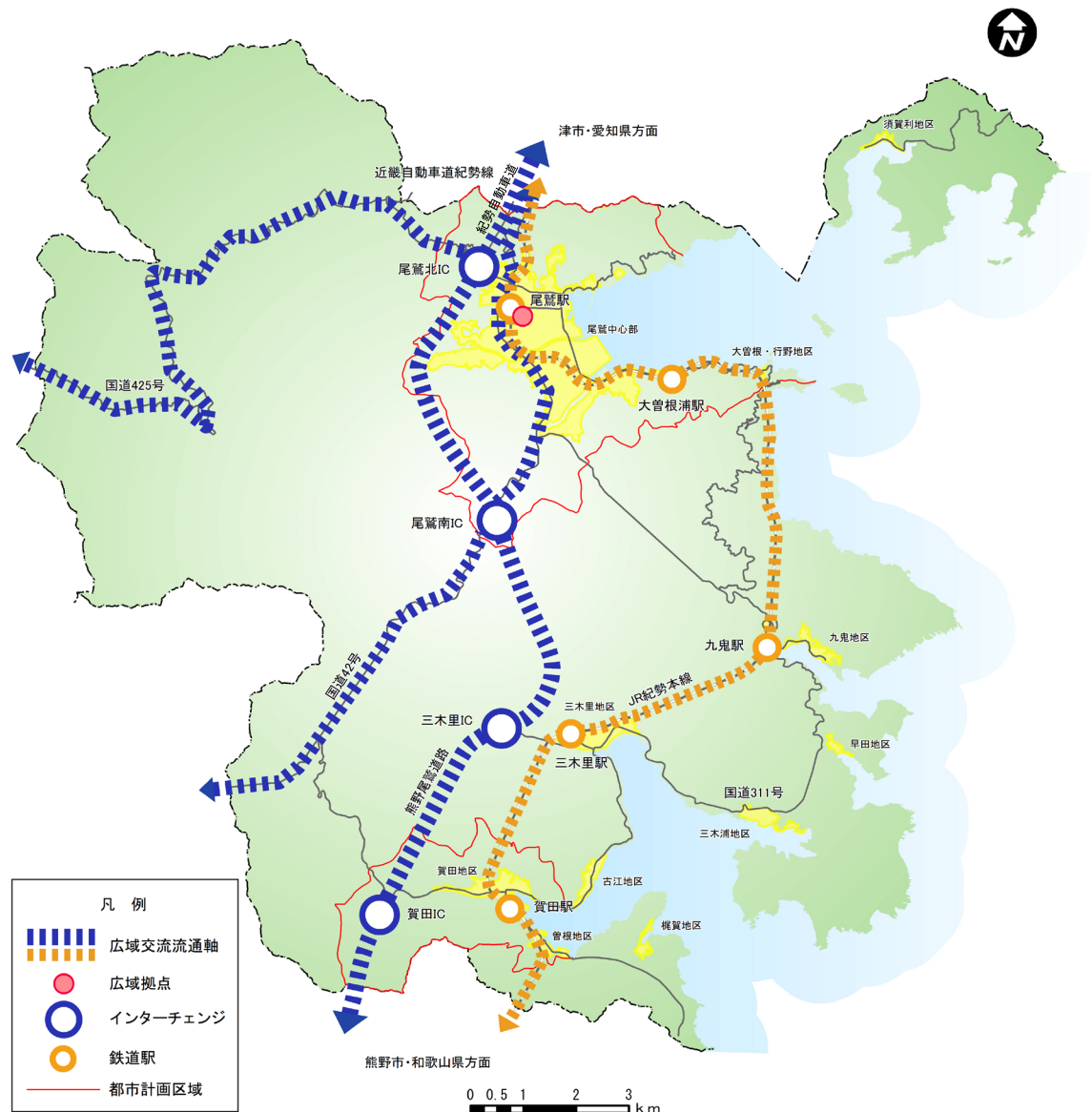


図 広域的な将来都市構造

◆ 地域的な視点

地域間交流生活軸や地域内交流流通軸を活用し、尾鷲市の都市中心部や農業・漁業集落、及び多様な拠点をネットワークすることにより、都市の再生を図ります。

【 地域間交流生活軸 】

「尾鷲中心都市」と各「農業・漁業集落」及び各「農業・漁業集落」間を結ぶ、国道 311 号や県道などは、市民の“生活の道”また地域間交流の幹線であることから『地域間交流生活軸』に位置づけます。また、国道 42 号は広域交流流通軸に位置づけていますが、一部区間については地域間交流生活軸としての役割も担っています。

【 地域内交流流通軸 】

尾鷲北 IC から尾鷲中心市街地内を経由して国道 42 号に至る幹線道路及び J R 尾鷲駅と尾鷲港をつなぐ幹線道路を、『地域内交流流通軸』に位置づけます。

【 尾鷲中心都市 】

尾鷲北 IC 及び尾鷲南 IC の整備により、尾鷲地区の流通産業や観光産業などのポテンシャルが高まることが期待されます。このため、尾鷲北 IC から尾鷲南 IC を含め、尾鷲地区の市街地から夢古道おわせ、熊野古道センター周辺地区を含めた地域を本市の中心となる都市とし、商業、業務、流通、観光産業などの集積を図る『尾鷲中心都市』に位置づけます。

【 尾鷲市街地 】

都市計画区域の尾鷲地区において、都市的土地利用がされている地区を『尾鷲市街地』とします。

【 農業・漁業集落 】

尾鷲市街地外に位置する集落は、農業や漁業などの地場産業により固有の集落構造を形成する『農業・漁業集落』に位置づけます。

【 新たな拠点 】

中部電力尾鷲三田火力発電所の廃止にともなう跡地は、「おわせ SEA モデル構想」に基づき新たな土地利用が計画され、本市において大きなインパクトとなることから『新たな拠点』に位置づけます。

【 防災拠点 】

三重県の「東紀州圏域マスタープラン」に広域的な防災に位置づけされた、「東紀州（紀北）広域防災拠点」、「尾鷲総合病院」、「尾鷲港」及び「三木浦漁港」を、将来予想される南海トラフ地震等に対応する『防災拠点』に位置づけます。

【 海洋深層水関連拠点 】

本市の将来の主要な地場産業の一翼を担う海洋深層水に関する施設等が立地する地区を、『海洋深層水関連拠点』に位置づけます。

【 レクリエーション拠点 】

本市にある近隣公園と市営運動場を、市民のレクリエーションや憩いの場となる『レクリエーション拠点』に位置づけます。

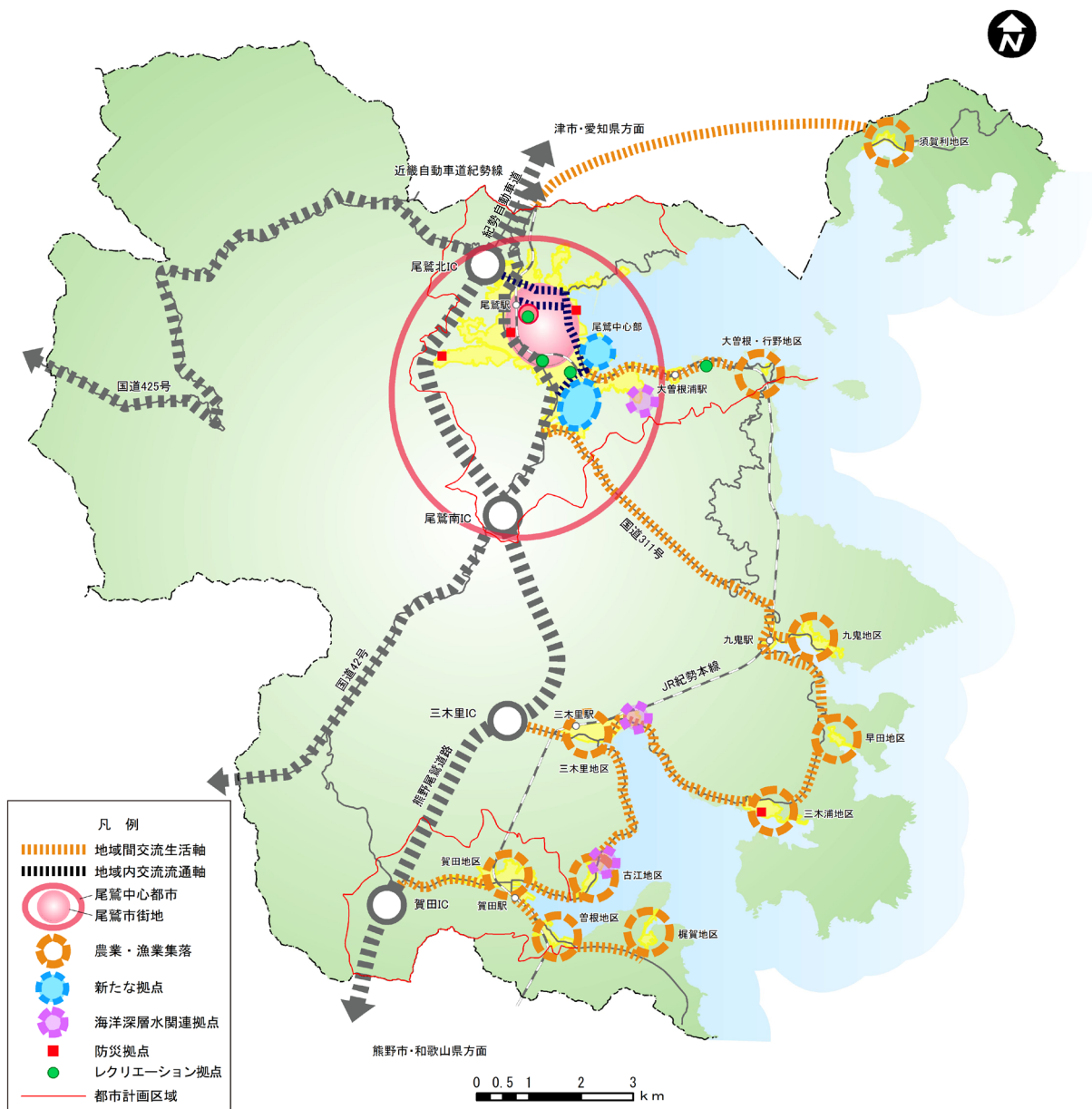


図 地域的な将来都市構造

◆ 自然環境や歴史文化観光の視点

美しく豊かな地域の自然環境の保全や歴史文化観光を育む地域資源を再生、整備することにより、豊かなで活力あるまちづくりを図ります。

【 山林等自然環境ゾーン 】

市域の大半の部分を占める山林は、本市の貴重な自然環境であり、また本市域北部の斜面地に広がる天満地区や南部の向井地区の農地なども、本市を特徴づける貴重な資源であることから、保全を図る『山林等自然環境ゾーン』に位置づけます。

【 国立公園ゾーン 】

本市の熊野灘沿いのリアス式海岸のほとんどは、吉野熊野国立公園区域に含まれており、本市の豊かな自然環境を全国に発信する観光資源であることから、今後とも保全を図る『国立公園ゾーン』に位置づけます。

【 歴史文化観光軸 】

世界遺産・熊野古道は、“尾鷲”を全国に発信する観光資源であることから『歴史文化観光軸』に位置づけます。また、旧道（猪ノ鼻水平道）や尾鷲市街地と須賀利地区をつなぐ陸路なども『歴史文化観光軸』に位置づけます。

【 歴史文化観光拠点 】

本市を代表する玄関口であるＪＲ紀勢本線尾鷲駅周辺は、「広域拠点」とともに歴史文化観光の拠点であり、そこから、尾鷲港までの地区を『歴史文化観光拠点』に位置づけます。また「夢古道おわせ」や「熊野古道センター」が立地する地区や三木里海水浴場も『歴史文化観光拠点』に位置づけます。

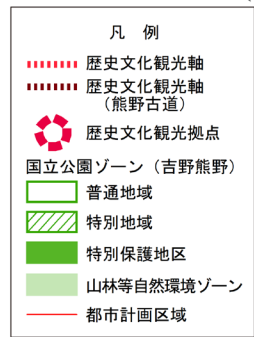


図 自然環境や歴史文化観光の将来都市構造

◆ 3つの視点をあわせた『尾鷲市将来都市構造』

3つの視点をあわせた都市構造は次のようになります。

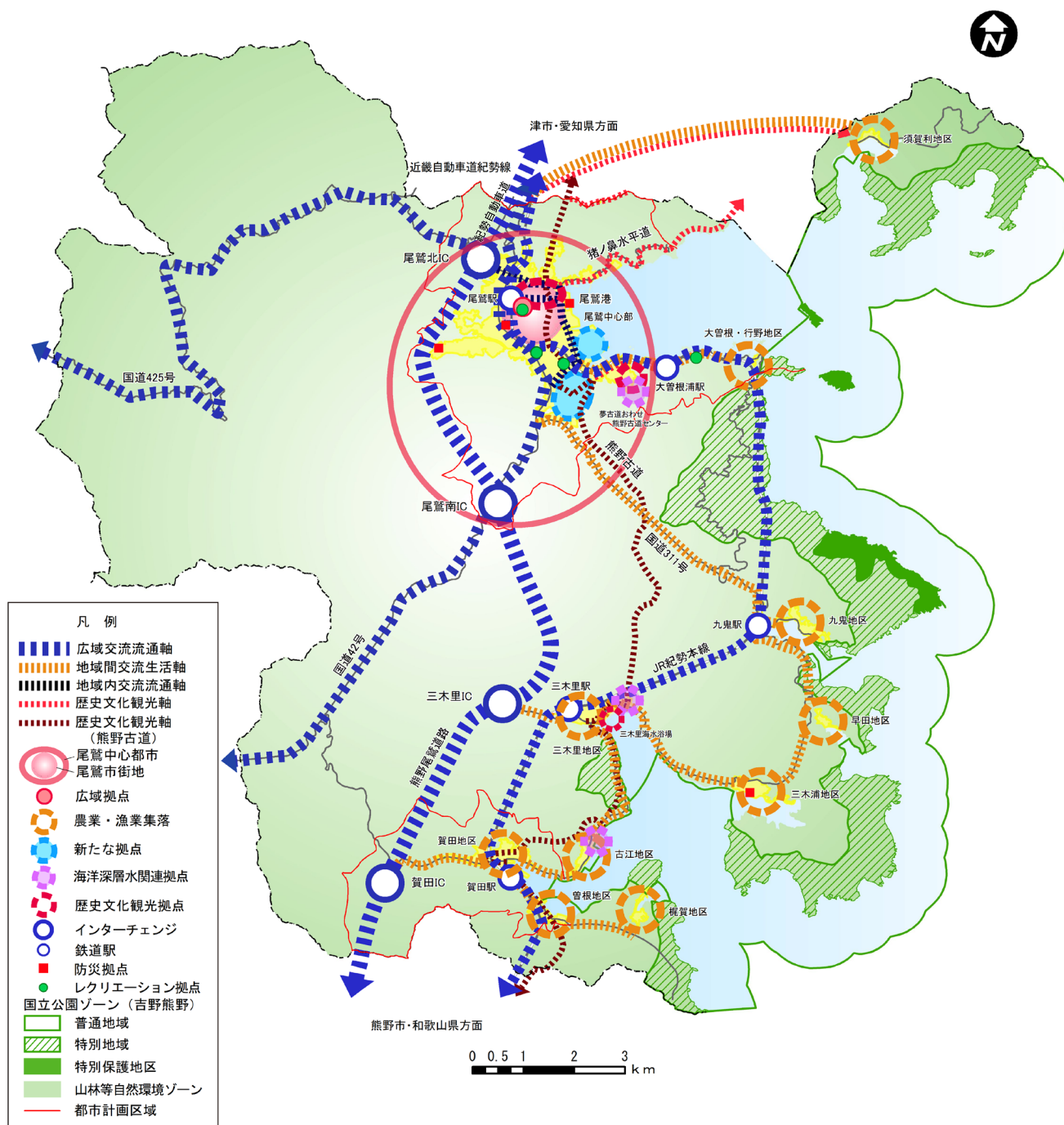


図 尾鷲市将来都市構造

3つの視点をあわせ、また中心市街地における「地域内幹線道路」を加えた、尾鷲市街地の将来都市構造は次のようになります。

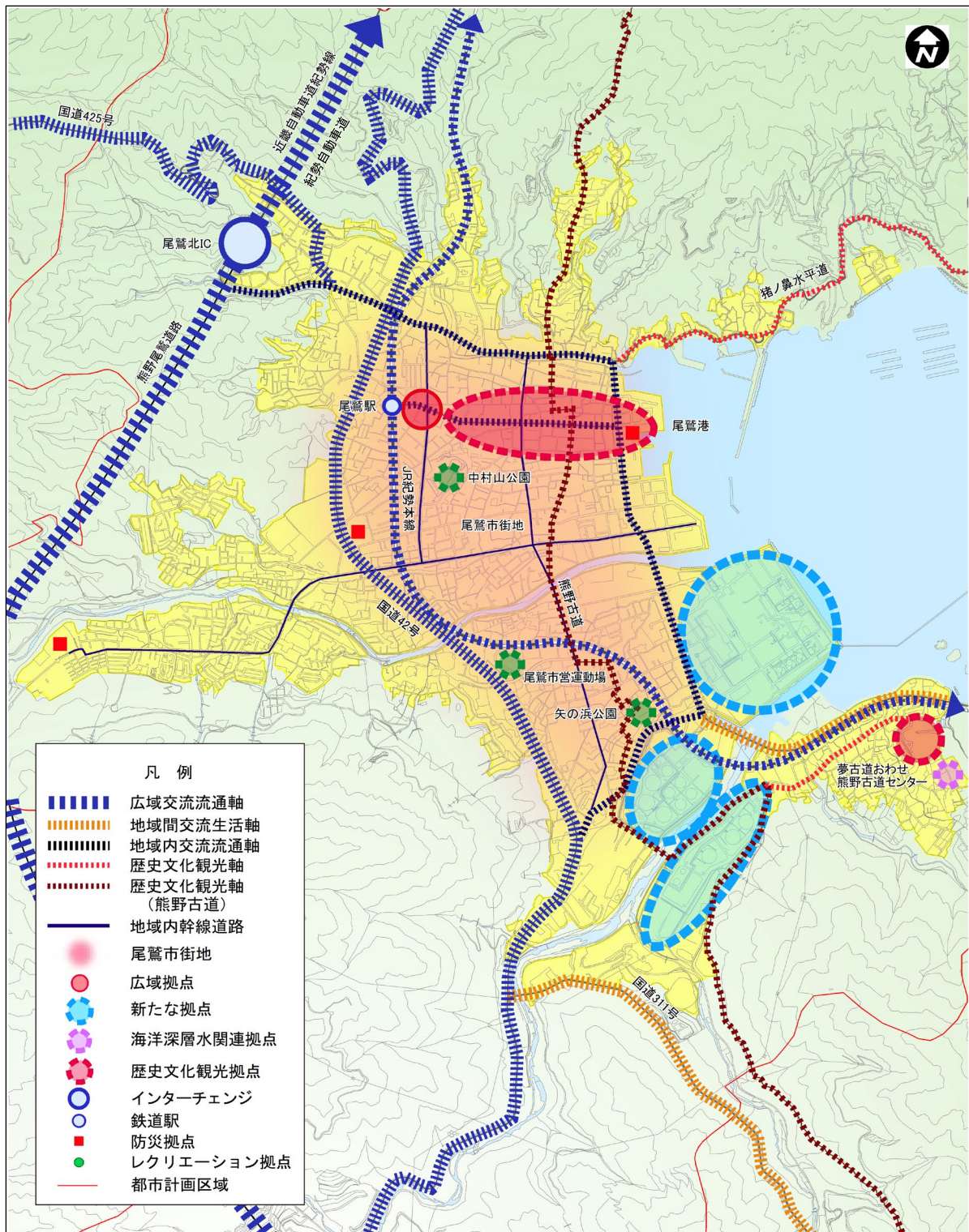


図 尾鷲市街地の将来都市構造